

## 令和 7 年度第 2 回山形県職業能力開発審議会議事録

日時：令和 7 年 9 月 17 日（水）

午前 10 時 30 分～午前 11 時 40 分

会場：県庁 1001 会議室

### 1 開会

### 2 あいさつ

- (1) 産業労働部長
- (2) 溜川会長

### 3 議事

- (1) 「県立職業能力開発施設の今後のあり方」に関する答申（案）について

#### 以下、各委員から発言のあった意見

##### 【阿部委員】

視点 4（県立職業能力開発施設における定員確保策）に関して、若干意見を言わせてください。高校との連携強化に関して、最近高校では探究学習に力を入れて取り組んでおりますので、その発表の場を、産業技術短期大学校において、コンテストとして開催することもできるのではないかと考えております。優秀な研究をした生徒には、学費減免にて入学させるといった新たな入学制度設計なども考えられるのではないかと考えたところです。

もう一点、情報発信の更なる強化について、これまで SNS や YouTube で発信されていたと思いますが、音声による情報発信も非常に重要だと思っております。ハードルが高いかもしれませんが、ポッドキャストを通した音声発信もありかと思ったところです。

ほかには、現在、エフエム山形さんが「YAMAGATA CAMPUS TOURS」（山形キャンパスツアーズ）というプログラムを実施しており、山形県内の様々な大学・短大等が、こちらの番組に出演しています。私のゼミも 8 月に出演させていただいたところです。こういった番組にリクエストするのも一つの手段かと思ったところです。

##### 【川俣委員】

答申案につきましては、大筋で賛成させていただきたいと思っております。

その中で何点か気になるところについての質問になります。

まず、資料 2 の視点 3 になります。民間や国の職業訓練施設とのすみ分けの部分で、民間の教育訓練施設や、私どもポリテクセンターなどとの役割分担というところになります。この中に含まれるのかもしれませんが、民間の専門学校についても、いろいろ見ていかなければいけないというところで、資料 3 の 23 ページに私立の専門学校等が一覧で掲載されています。

その中の山形 V. カレッジの AI・情報システム科等、また、今年度の 4 月に開校された

山形情報ITクリエイター専門学校の高度システム開発コース、システム開発コース、AIシステム・データサイエンスコース、ゲーム制作3年生コース等々、今後の若者・高校卒業生対象という少ない限られた範囲で競合しているところだと思いますので、そういった調整も含めてもう少し深掘りして考えていく必要もあるかと気になったところです。

また、資料2の視点4、定員確保策について名称の問題が各審議会の中で複数の委員から意見が出されたところでございます。今回の答申案では、山形職業能力開発専門校と庄内職業能力開発センターについて名称変更を検討するということですが、産業技術短期大学の名称については検討しないということによろしいでしょうか。

最後になりますが、資料3の14ページの県立職業能力開発施設の今後のあり方の(1)少子化を考慮した訓練体制の最後の段落で、県立職業能力開発施設の効率的な運営という表現が出てまいります。入校案内、入学試験、学籍簿・成績処理の一元化などの検討についても進めていく必要があるという記載があります。令和6年3月からこの審議会に参加して、また、議事録の確認も署名等をさせていただいておりますが、この効率的な運営についての意見が過去に委員からあったという確認が取れませんでした。いずれにしても、この効率的な運営が必要であることには間違いないので、答申に含めていただくということで問題はないと思っておりますが、専門部会の方で出ている可能性がありますのでその辺りが確認できればと思って、質問とさせていただきます。

#### 【高橋委員】

先ほど御説明のありました内容に関しましては、問題ないと思っておりますが、一つだけ情報発信について少し気になったところがございます。

中学生・高校生に対し、産業技術短期大学校、山形職業能力開発専門校や庄内職業能力開発センターで行っている出前授業の内容等に関して配布を行っていただいております。

私は技能五輪にも関わっておりまして、昨年度山形県で初めて、また、全国でも初めて、石橋葵くんが家具職種において金メダルを4年連続して取られております。葵くんは、高校時代に二度ほど技能五輪に出場しております。高校時代に出場するということは、中学時代から目標を決めて高校を選んだの出場だったと記憶しております。高校時代には2回、2、3年生時において出場しておりましたが、そのときは入賞できなかった。それで山形県の天童木工に就職をして、ここであれば技能五輪に参加させていただけるんじゃないかと、そういった目標を持って高校卒業して単身で天童に来まして、入社して金メダルを4年連続で取られたという実績がございます。

子どもたちが学校を選ぶにあたって、就職するにあたって、中学生時代からそういった目標を持ってもらうことが大事なのではないかと思っております。

今後のあり方の中で、出前授業の案内を出していただくことに加えて、厚労省で認定しておりますものづくりマイスターの方々に、中学校・高校といったところに出前授業をしてもらうためにも、今回の資料と一緒に情報発信していただければと思っております。

私は、2年ほど前まで、ある中学校で数年間にわたってものづくり体験教室を行ってまいりました。そのときに校長先生、教頭先生、教務主任にものづくりマイスター制度を利用して生徒さんにそういった体験をさせたらどうかといった提案をしましたが、そういった制度が

あることを知っておられませんでした。校長先生が変わるたびに同じことを言いましたが、一切、中学校では認知されておりません。ですから、まず今後機能のスキルアップを図るためにも、中学校や高校の生徒さんに技能に関する興味を持ってもらい、その後、卒業してから産業技術短期大学校や山形職業能力開発専門校に入校をしてもらう道筋をつけていただければと思っております。

#### 【中鉢委員】

審議会の答申につきましては全体的にこのまま進めていただきたいと思いますと思っております。

個人的には出前授業の案内のタイミングが少し気になったところでした。中学校・高校の新年度が始まる4月には、年間の予定が大体決められている状態かと思われます。予算の心配事もあるかもしれませんが、このタイミングで、令和8年度もこのような出前授業を予定してますのでぜひ計画に盛り込んでくださいといったPRを中学校・高校にしてもよろしいのではと思ったところです。

山形県は若者、それから女性の流出という大きな課題を抱えています。この審議会は、職業能力開発施設で知識や技能を身につけさせ、山形県内への就職を促進していくといった非常に重要なポジションにあると思います。ぜひ、もっともっと盛り上げて、流出を止められるようになればと思ったところです。

#### 【松田委員】

答申案は、大体まとまっていると思いますので、これでいいかと思います。

ただ、個人的な意見として、最初に出席したときに少子化でこれからどうなっていくんだろうか、学校が続くのかという印象がありました。

酒田には庄内職業能力開発センターがあるとのことですが、私の会社は製造業で、金属溶接が主で、会社で高卒の方に教えるのにとっても苦勞しています。基本が学べるのはとてもいいことだと思うので、そういった長所をアピールして生徒を募集したらいいと思います。

質問なのですが、この施設に入校される方たちはどこからいらしての方が多いいのかをお聞きしたいです。

また、以前、あまりにも人が少ないという印象が強かったもので、県外の入学者は考えていないのですかというお話をさせていただきました。そのときに、寮などもあるから、県外者の受入れも大丈夫だという話を聞いたのですが、その寮がだいぶ老朽化しているといった話もお聞きしました。長井工業高校は、来年から県外の志願者募集をかけているとお聞きしています。どんどん変わる現状に対し、やり方を少し考えたらいいいのかなと思っています。

置賜では、例えば今回、米沢工業高校と米沢商業高校の二つが合併して、米沢鶴城高校という学校になりましたが、米沢工業高校には専攻科があったと思います。

今回の内容を見てみますと、高校を卒業してから産業技術短期大学校庄内校に行くのに、酒田光陵高校が5年一貫教育として授業で主に使用するプログラミング言語を統一するなどして、将来的に入学もスムーズになるようなカリキュラムを意識しているという話がありました。

これから高校をどんどん統合していくというときに、こういったものを置賜の方に、例え

ば米沢辺りに導入していただき、置賜の人間をどんどんこういう学校に入れていただきたいと思います。

あと、高卒者だけを会社に入れようと思っていましたが、もう4年制大学がほとんどの時代です。社長さん方が集まる会議では、大学生は給料が高いから雇えないと、何年か前まで言っていましたが、うちの会社も去年8月に4年制大学卒業者を受け入れました。どういった大学かは全然わかりませんでした。仕事を教えて今は何とかやっていますが、一から教えるのはやはり大変で、特に溶接なんかですと、クレーンを始めいろいろな資格も取らなくてはなりません。全部会社で教えて、全部資格を取らせて仕事をしている状況です。入社してからお金がいっぱいかかっています。そのため、ある程度学校にお金を出してでも教育を任せられればと考えております。

これからIoTなどが進んでいくと思います。長井市でも産業博のような催し物を計画中です。製造業が結構まとまっており、いろいろなことができるので、そういったことを期待して、学生も考えてもらえたらと思います。

この間、9月の初めに中学校の職場見学というものがあまして、製造業を全然知らない1年生が2班ちょっと来ました。何もわからずに来るので、火花が熱いとかそういうこともわからなければ、こんな暑いところで働いているのかなどといった感じでしか考えていない。学校は全てクーラーが入っている状況ですから、働いてるところもそういった環境だと思っていますが、実はそうではないので、なかなかいいところと見られておりません。

しかし、近くにはいろいろな会社がいっぱいあるよと回ってもらって、いろいろな体験してもらっています。そういうものをどんどん増やしていければと思います。

出前授業や体験教室とは違うかもしれませんが、9月に計画を立てて小学生と中学生にいらしていただきました。様々な事業をなさっていることは確かなようですので、私たちからも宣伝しようと思います。身近にあるポリテクセンターは知っていましたが、ポリテクセンター以外にもきちんとしたものが習える施設があるということを知らなかったのも、今回参加させていただいていろいろと自分の勉強にもなりましたし、良かったと思う点を周りにPRしたいと思っています。

#### 【小関委員】

私も答申案には賛成です。先日の会議の後に、自宅の方でもこの話題を持ち出したところ、子どもたちや周りの友達、やはり4年制大学に進みたい子も多いようですが、女の子なので、看護学校や美容師などの手に職をつけられる道に進みたい子が私の時代と比べてとても多い感じがしました。男の子の話はあまり聞いたことはありませんが、機械とか、土木とか、そういったことにも興味があると思うので、PRがうまくいけば、専門的なことを学べる学校はこれから人気が出るのではないかと思います。

夫は、山形職業能力開発専門校でも資格取得ができる自動車整備士として働いています。自動車科の高校出身ですが、山形職業能力開発専門校のことは全く知らなかったようです。夫は働きながら資格を取り、整備士として働いております。人材不足ですが、新入社員もほぼ入らないような状態で、地元の方が働いているのにも関わらず、山形職業能力開発専門校の自動車科を卒業した方はいらっしゃらないようでした。ただ、他の専門学校を卒業してき

た方や社会人になって資格を取ったという方も多々いらっしゃるようなので、PRがうまくいけば、県内に残りたい子どもたちも少なからずいると思うので、そういう子たちの耳に入って、県内で働く企業に勤める、資格が取れるのであれば行きたいとみんな思ってくれるのではないかと思います。

企業に向けてもそうですし、学校に向けてもそうですが、PRと学校の周知がうまくいってほしいと思ったところです。

#### 【坂井委員】

私も今後のあり方については、この内容でよろしいかと思います。今までの審議会の内容が詰まったものになっているのではないかと考えております。

一つ、出前授業について少しお伺いしたいところと御意見をさせていただきたいと思います。説明資料1にあるとおり、県内全ての中学高校にパンフレットを送付と書いてありますが、これは資料を県内に送って周知をしたということなんですね。令和6年度については出前授業が少なかったということでしたが、例えば、全ての中学・高校とは行かないにしても、実際にこの資料を持参し先生方に説明をしていただくのが、聞く・もらう側にとってもすごく丁寧ですし、やっぱり資料に載っていないことも直接お話をすればわかるのではないかなというところが一つありました。大規模な出前授業が少なかったということなので、例えば、中学生・高校生プラスその保護者の方も一緒に聞いていただくなどすれば、もう少し人数の方も大規模に参加していただけるのではないかと考えております。やはりパンフレットだけとか、先生からの説明だけというのも、生徒さんにとってあまり理解ができないのではないかと思います。このカリキュラムの内容を見ても、システムエンジニアや生成AI、プログラミングなど今の若者にとっては興味のあるような中身がとてもたくさん詰まっていますので、ぜひ一人でも多くの生徒さんに聞いていただいて、少しでも興味が出ていただければ、それが周知に繋がるのではないかと思います。出前授業や体験教室はとても大切で、今後も続けていただきたいと思います。

#### 【榛葉委員】

提示いただいた答申案につきましては、よろしいかと考えております。

あえて今後の検討材料として、御意見を伝えさせていただくとすると、今は高校卒業生を対象とした学校運営をされているかと思いますが、資料3の14ページ(2)企業ニーズに対応した産業人材育成というところで、社会人経験者等のキャリアチェンジ等を目指す人材の入校についても期待できるという記載がございます。高校卒業生を対象としたカリキュラムで運営を行われている中で、社会人経験者のキャリアチェンジまで範囲を広げようと思うと、年齢層が高くなります。訓練修了後について考えると、IT関係では、30代前半ぐらいまででないとなかなか就職が厳しいといった状況もありますので、このキャリアチェンジを目指す場合、年齢層を絞るというのは難しいかとは思いますが、その先の再就職やキャリアチェンジして、その後働き続けるというところを考えるカリキュラムになってくると、またそれはそこで課題が出てくるかと思うので、ここまで広げるのであれば今後引き続き検討を続けていただきたいと思います。

## 【雇用・産業人材育成課長】

私の方から、各委員からいただいた御質問についてお答えさせていただきます。

まず、川俣委員から頂戴したいいわゆる専門学校・専修学校との競合につきましては、IT関係についてはニーズが高まっており、最近山形でもIT関係について学ぶ学校が少しずつ増えております。企業対企業におきましても、ITを活用した新たなビジネスやビジネスにおけるDX化など、デジタル人材というのは非常に大切だと考えております。

競合という部分では、実際に、専門学校の方とも話をしており、まだ競合関係になるというような状況ではございません。産業技術短期大学校は智能電子システム科も含めて、比較的定員を超過しているような状況もありますので、今後、定員の推移を見守ったうえで、必要であれば専門学校等との競合について検討していきたいと考えております。

続いて名称に関して、皆様の御意見から、能力開発といった言葉は少し古く、逆に、産業技術短期大学校という言葉自体は、それなりの訴求力があると考えております。まずは少なくとも山形職業能力開発専門校と庄内職業能力開発センターについて、新しい名前に変えてはどうかという答申案にさせていただいております。

効率的な運営につきましては、7回ほどあった専門部会の方でそういった議論が出ております。実際各学校で提案しているいわゆるデジタル化、学籍簿の管理や成績証明の発行などの統一化など、産業技術短期大学校で実際に進めていきたいと考えております。

続いて、高橋委員から頂戴したものづくりマイスターの事業は職業能力開発協会で実施している内容となります。産業技術短期大学校だけでなく、ものづくりマイスターも当課で所管しておりますので、高校への情報発信や小学校・中学校へのPRについて、協会とも話をしながら一緒に進めていきたいと考えております。

中鉢委員から頂戴した出前授業の案内のタイミングについては、先ほども少し説明させていただきましたが、年度明けでは遅いというところもありますので、その前のできる限り早い段階でPRしたいと考えております。

続いて、松田委員から頂戴した主に庄内職業能力開発センター在籍者の出身地についてです。産業技術短期大学校ですと、9割弱が県内、1割は県外の方となっております。本校及び庄内校ともにそのような状況です。山形職業能力開発専門校になりますと、県外の方もいらっしゃるようですが、県内の方が多い状況です。庄内職業能力開発センターについては、他の三つと違いまして、学卒者も入校は可能ですが、離転職者の方が基本となりますので、ハローワークを通じて入校するといったこともあり、ほぼ庄内地域の方となっております。

置賜の方にもぜひというような話のあった、産業技術短期大学校庄内校と酒田光陵高校との5か年事業は非常に良い事例だと考えております。ぜひ、横展開、他の地域の学校と産業技術短期大学校での連携などを仕掛けていければと考えております。

最後、出前授業のPRの仕方ですが、例えば学校の校長会や、保護者も含めた学年行事などを活用し、PRしていきたいと考えております。もう一步進めた形でPRすることで、小中学校の子どもに対してのものづくりに対する意識づけを進めたいと考えております。

#### 【議長（会長）】

この方針案に基づいて進めていただければいいかと思います。皆様から頂戴した御意見ですと、やはりどのようにして周知を行っていくかというところがメインだったかと思います。が、中学生あるいは小学生の早いうちに興味を持ってもらう方策があればいいと考えます。

また、周知のタイミングといったお話もございました。あらゆる手段を使ってということだとは思いますがSNSのほかにも、音声による発信ということで御意見としてラジオが挙げられております。個人的な意見としましては、今後少子化が反転して回復ということにはならないだろうと考えると、教育機関はどこもそうだと思うのですが、定員確保を目指して頑張っていくのは重要だとは思いますが、定員削減も視野に入ってくるんだろうと思います。その中でどうしていくかというところで、やはり大学を卒業して就職している方々に対するリスクリングを重視することもありではないかと思っております。というのもAIに関する技術が最近かなり発達しておりまして、先ほどの業務の効率性のお話もございましたが、あの辺りはかなり削減できるようなところで、むしろ文系の人材の方がそれを学んだ方がいいと個人的には思っております。その辺りも重視しておけば、県内全体の生産性の向上に寄与するのだろうと思います。

#### 4 その他

#### 5 閉会